

プロフィール

古無脊椎動物担当学芸員

太田 泰弘 Ota Yasuhiro

おおた やすひろ

[所属] 北九州市立自然史・歴史博物館 自然史課 学芸員

[担当] 古無脊椎動物、ジオの活動！

[学位] 理学博士(九州大学)

[専門分野] 地質・古生物学

[資格] 学芸員資格単位

【所属学会等】

日本洞窟学会（評議員：2002年1月～2024年12月）

日本洞窟学会（洞窟学雑誌編集委員：2002年1月～2024年12月）

日本洞窟学会（事務局長：2004年1月～2019年12月）

日本洞窟学会（ケイビングジャーナル編集委員：2009年1月～2019年12月）

日本洞窟学会第35回大会秋吉台大会実行委員会委員：2009年9月

日本地質学会（代議員：2008年総会～2010年総会，2014年総会～2018年総会，2020年総会～2024年総会）

日本地質学会（生涯教育委員会委員：2020年7月～2024年7月）

日本地質学会（古生物部会：2006年総会～2023年総会）

日本地質学会（理事：2010年総会～2014年総会）

日本地質学会（広報委員：2008年度総会～2014年度総会）

日本地質学会西日本支部（役員：2022年度～2023年度）

日本地質学会西日本支部（企画委員：2005年4月～2010年3月）

日本地質学会西日本支部（幹事：2010年4月～2013年4月）

「ジオ・シンポジア 2010 in 北九州」（日本地質学会近畿・四国・西日本支部三支部合同例会）運営委員会委員および実行委員（2010年3月15日～7月31日）

日本古生物学会 2017年年会・総会開催実行委員会（2017.6.9-6.11）

日本古生物学会（特別会員：2006年度から）

日本第四紀学会(正会員)

日本サンゴ礁学会(通常会員)

福岡県環境教育学会(運営委員:2010年12月～2023年度総会)

福岡県環境教育学会第38回例会(平尾台, 広谷湿原・青龍窟)担当(2018年5月)

福岡県環境教育学会第20回年回(九州国際大学)実行委員会委員(2017年8月)

福岡県環境教育学会第25回例会(いのちのたび博物館・北九州市環境ミュージアム)実行委員会委員(代表)(2011年11月)

福岡県環境教育学会第13回年会(九州女子短期大学)実行委員会委員(2010年8月)

福岡県環境教育学会(監査委員:2000年度総会～2001年度総会)

【非常勤講師等】

九州国際大学非常勤講師(自然科学概論:2016～2023年度春学期)

北九州市立大学非常勤講師(自然史へのいざない:2007～2018年度後期)

北九州市立大学特別講師(自然史へのいざない:2020～2022年度後期)

北九州市立大学非常勤講師(博物館資料保存論:2013～2016年度前期)

北九州市立大学非常勤講師(人間環境実習実験:2012年度前期)

福岡教育大学非常勤講師(博物館学B:2010～2013年度後期)

九州国際大学 地球科学 I 特別講演(2010年7月21日)

「GEOの視点の重要性について～北九州のジオパーク構想～」

広島大学理学研究科地球惑星システム学科セミナー講演(2009年3月24から25日)

「学芸員について」

北九州市民カレッジ講師(2013年6月15日)

「好きになっちゃりい北九州 Vol.9 キタキューの「あ・か・り」

世界に発信!!大地の魅力～自然と歴史を活かしたジオパーク活動～」

北九州市民カレッジ講師(2013年6月15日)

「進化の実験室 ～ちょっと変わった生きものたち～ 小さな地球遺産フズリナ(化石)」

北九州市民カレッジ講師(2010年6月24日)

「北九州の大地の多様性(ジオ・ダイバーシティ)について～大地の多様性の理解の重要性について～」

北九州市民カレッジ講師(2009年6月27日)

「たんけん,たんけん,自然史ゾーン」

北九州市民カレッジ講師(2009年5月23日)

「文化財の視点から地質現象を楽しむ方法(北九州編)副題:Geo-diversity のめぐみ」

北九州市民カレッジ講師(2008年11月4日)

「楽しく学ぶ“自然のしくみ”：北九州のジオパーク(地質公園)」

【委員等】

- 国指定天然記念物「東峰村の阿蘇4火砕流堆積物および埋没樹木」保存活用計画策定委員会委員（東峰村）2022年7月1日～2023年3月31日
- 平尾台自然観察センター改修基本設計に係る意見交換会委員（令和4年度、2022. 12. 20）（福岡県環境部）
- 平尾台自然観察センター改修基本設計に係る意見交換会委員（令和3年度、2021. 11. 1, 12. 21）（福岡県環境部）
- 美祢市立博物館等施設将来構想検討委員会委員（山口県美祢市）委員（委員長 田中和広：山口大学副学長）2018. 11. 8－2021. 3. 31
- 新科学館・藤田哲也博士関連展示を考える懇談会・メンバー（座長 金氏 顯）2019. 10. 3-2019. 11. 29
- Mine 秋吉台ジオパーク構想拠点施設検討委員会（山口県美祢市）委員（委員長 田中和広：山口大学副学長）2015. 3. 10－2016. 3. 31
- 北九州ジオパーク基本構想策定準備委員会・委員(事務局兼務)（委員長 伊藤明夫：いのちのたび博物館長）2010. 12. 7～2011. 10. 31
- 国指定天然記念物七釜鍾乳洞学術予備調査・会議委員(委員長 西海市 教育長)2008. 10. 1～2009. 3. 31
- 国指定天然記念物七釜鍾乳洞学術本備調査・会議委員(委員長 西海市教育長)2009. 4. 1～2010. 3. 31
- 国指定天然記念物七釜鍾乳洞学術本備調査・会議委員(委員長 西海市教育長:福岡大学研究協力)2010. 4. 1～2010. 4. 31
- 天然記念物(地質鉱物)に関するワーキンググループメンバー(座長 入佐友一郎:福岡県総務部)H20. 12～H24. 3.

主な研究活動

- 平成28年度 カシエクリーク（カナダ・ブリティッシュコロンビア州）共同研究（佐野弘好・牧野帆乃香 九大理）
- 平成22～24年度 地球科学と考古学を応用した環境教育の原理と効果に関する研究(平成22年度科学研究費補助金 基盤研究C)(研究代表 野井英明 北九州市立大学教授)
- 平成19～21年度 地学教育と環境教育のためのGeoparkの構築(平成19年度科学研究費補助金 基盤研究C)(研究代表者 野井英明 北九州市立大学教授)
- 平成19年～現在まで:地球惑星科学教育におけるアウトリーチに関する研究(北九州市立大学 野井英明教授と共同研究)

- 平成18年～現在:アメリカ, コルディレラ地域および秋吉・美濃帯(日本)の中・古生代付加体に分布する海洋性岩石の比較・研究(駒沢大学 山縣毅博士と共同研究).
 - 平成14年～現在:北九州市立自然史・歴史博物館自然史課学芸員として古無脊椎動物(無脊椎動物化石)に関する博物館業務を担当, 関連する研究業務を実施.
 - 平成9年～14年:北九州市立自然史博物館業務課学芸員として, 博物館の専門職に従事すると共に, 地質・古生物学を中心とした研究活動を行う.
 - 平成8年(8/9-8/19;8/24-9/13):南京地質古生物学研究所(中華人民共和国)において中国産フズリナ化石の比較検討を実施(南京地質古生物研究所:Wang Xiang-dong博士と共同研究).
 - 平成7年～9年:九州大学理学部において研究生として中期石炭紀～早期ペルム紀秋吉石灰岩層群産フズリナ化石について調査研究.
 - 平成5年～7年:美祢市歴史民俗資料館学芸員として美祢市化石館建設のための古生物学的資料を収集すると共に山口県秋吉台に分布する秋吉石灰岩層群産フズリナ化石の調査研究を実施.
 - 平成2年～5年:平成4年度文部省科学研究費補助金「石炭潤|ペルム系境界の策定に関する総合的研究」(研究代表者:北海道大学, 加藤誠)大学院生協力者として研究活動に参加.
 - 昭和62年～5年:九州大学大学院理学研究科地質学修士課程, 博士課程にて古生物学を専攻(フズリナ類の系統・進化・分類および生層序学的研究を行う).
 - 昭和58年～62年:鹿児島大学理学部地学科にて地質・古生物学を専攻(広島県・庄原市付近の地質及びクジラ類化石についての調査研究を行う).
-

主な研究業績

【論文・報告書等】

- 2023/3. 独自活動と博物館への協力(活動実績:2022年度)[Activity report for FY2022 (April 1, 2022- March 31, 2023) and the Supporting activities for KMNH];杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・高橋俊吾・大橋直子・森三保・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・白川正樹・浦田健作・森ふさ恵・富永重稔・葉山彰・船井泰乃・野井英明・宮田薫. ジオ&バイオ研究会報告書, ジオ&バイオ研究会, 第12号, p. 3-32.
- 2022/3. 新型コロナウイルス感染症未終息下での特別展における新たに導入した展示手法と来館者の反応(Newly adopted exhibition method and visitor's reactions in the special exhibition under the COVID-19);真鍋徹・中西 希・太田泰弘. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告A類(自然史), 第20号, p. 5-15.

- 2022/3. 独自活動と博物館への協力(活動実績:2021年度)[Activity report for FY2021 (April 1, 2021– March 31, 2022) and the Supporting activities for KMNH];杉野 広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・高橋俊吾・大橋直子・森三保・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・白川正樹・浦田健作・森ふさ恵・富永重稔・葉山彰・船井泰乃・宮田薫. ジオ&バイオ研究会報告書, ジオ&バイオ研究会, 第11号, p.3-41.
- 2021/10. Pennsylvanian paleoclimatic record in rhythmites developed on an oceanic island of low-latitude Panthalassa; Kakizkaki, Y., Kano, A., Ota, Y., Nakada, R., Nagaishi, K., and Kashiwagi, K. *Sedimentary Geology* 424 (2021), Article 105992
- 2021/3. Carboniferous brachiopod *Latiproductus edelburgensis* (Phillips, 1836) from Akiyoshi and Omi, Japan; Ibaraki, Y., Ota, Y., and Fujikawa, M. *Science reports of Niigata University. (Geology)*, v.36, p. 43-52,
- 2021/3. 活動実績：独自活動と博物館への協力(Activity report for the financial year ended March, 2021(April 1, 2020– March 31, 2021) and the *Supporting activities* for KMNH)；杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・高橋俊吾・大橋直子・森三保・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・白川正樹・浦田健作・森ふさ恵・富永重稔・葉山彰・船井泰乃・宮田薫. ジオ&バイオ研究会報告書, ジオ&バイオ研究会, 第10号, p.3-11.
- 2021/3. 自然の中に楽しみを見いだす. いまだからこそ G&B 研究会 (A new way of enjoying nature! 10 years of Geo & Bio Research Group). 太田泰弘. ジオ&バイオ研究会報告書, ジオ&バイオ研究会, 第10号, 設立10年特集, 10年を振り返って、そしてこれから, p. 36-38.
- 2020/3. 活動実績2：活動と博物館への協力(Activity report for the financial year ended March, 2020(April 1, 2019– March 31, 2020) and the Supporting activities for KMNH)；杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・高橋俊吾・大橋直子・森三保・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・白川正樹・浦田健作・森ふさ恵・富永重稔・葉山彰・船井泰乃・宮田薫. ジオ&バイオ研究会報告書, ジオ&バイオ研究会, 第9号, p.13-44.
- 2019/3. 活動実績2：活動と博物館への協力(Activity report for the financial year ended March, 2019(April 1, 2018– March 31, 2019) and the Supporting activities for KMNH)；杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・高橋俊吾・大橋直子・森三保・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・白川正樹・浦田健作・森ふさ恵・富永重稔・葉山彰・船井泰乃・宮田薫. ジオ&バイオ研究会報告書, ジオ&バイオ研究会, 第8号, p.5-46.

- 2018/4. 故太田正道の軌跡 (Life and Career of the late Dr. Masamichi Ota); 太田泰弘. ケイビングジャーナル, No. 62, p. 9-15.
- 2018/3. 活動実績「北九州ジオかるた」の製作開始 (The first challenge : Making Geo-Karuta for Kitakyushu Geosites in Kitakyushu City -End of Year Activity Report-); 杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・高橋俊吾・大橋直子・森三保・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・白川正樹・浦田健作・森ふさ恵・富永重稔・葉山彰・船井泰乃・宮田薫. ジオ&バイオ研究会報告書, ジオ&バイオ研究会, 第7号, p. 5-52.
- 2017/3. 北九州ジオパーク構想の普及推進事業を充実・継続した活動実績(The improvement, dissemination and promotion of the Kitakyushu Geopark Initiative: our uninterrupted, continuous records); 杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・高橋俊吾・大橋直子・森三保・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・白川正樹・浦田健作・森ふさ恵・富永重稔・葉山彰・船井泰乃・宮田薫. ジオ&バイオ研究会報告書, ジオ&バイオ研究会, 第6号, p. 3-44.
- 2016/3. 北九州ジオパーク構想の普及推進事業を継続した活動実績(Promotion of Popularizing the Kitakyushu Geopark Initiative and Its Results) ; 杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・高橋俊吾・大橋直子・森三保・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・白川正樹・浦田健作・森ふさ恵・富永重稔・葉山彰・船井泰乃・宮田薫. ジオ&バイオ研究会報告書, ジオ&バイオ研究会, 第5号, p. 1-47.
- 2015 /3. 秋吉帯石灰岩に由来する下部白亜系高津尾層の石灰岩礫産フズリナの化石化について(Fossilization of fusulinoideans in limestone clasts of conglomerates of the Lower Cretaceous Takatsuo Formation, originated from the limestones of Akiyoshi Terrene) ;太田泰弘・安東淳一・藤川将之. 秋吉台科学博物館報告 (美祢市秋吉台科学博物館) , 第50号, 11-25.
- 2015/3. 新体制で臨んだ活動1年目の実績. 新体制で臨んだ活動1年目の実績 (Activity Results in the First Year of the Newly Organized G&B Research Group) ; 杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・大橋直子・森三保・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・高橋俊吾・浦田健作・白川正樹・森ふさ恵・富永重稔・葉山彰・宮田薫・船井泰乃. ジオ&バイオ研究会報告書, ジオ&バイオ研究会, 第4号, p. 3-31.
- 2014/3. GEO&BIO 研究会、三年目のアクション(Third Year Action of the GEO & BIO Research Group);杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・森三保・加藤久美子・大橋直子・白川正樹・高橋俊吾・花田秀揮・森ふさ恵・八百屋さやか・浦田健作・大澤得二・富永重稔・宮田薫・船井泰乃. ジオ&バイオ研究会報告書, 第3号, p1-70.
- 2013/3 GEO&BIO 研究会活動2013年の記録～2年度目の展開～(2013 Annual Record of GEO & BIO Research Group : it' s second-year developments) ; 宮田薫・太田泰弘・原賀いずみ・杉野広利・森三保・浦田健作・加藤久美子・白川正樹・富永重稔・高橋

俊吾・花田秀揮・森ふさ恵・八百屋さやか・大橋直子・大澤得二・船井泰乃. ジオ&バイオ研究会報告書, 第2号, p1-55.

- 2013/9. 黒崎城跡(遺跡)とその周辺をフィールドとした野外観察の環境教育効果の検証と意義(Empirical Study of Environmental Education Effect and Significance of Field Observations of the Kurosaki Castle Ruins and Surrounding Area);野井英明・太田泰弘・梅崎恵司. 環境教育(日本環境教育学会), vol.23-2, 93-104.
- 2013/3. 野外における新しいコミュニケーション・ツールの必要性とソーシャル・シグナルを感受することの重要性について(Necessity of new communication tools in “outdoors”, and importance of catching the social signals, from perspectives of the lifelong education) 太田泰弘・野井英明・ジオ&バイオ研究会. ジオ&バイオ研究会報告書, No. 2, p59-65.
- 2012/5. 北九州市門司区白野江青浜海岸で発見されたアンモノイドについて:秋吉石灰岩層群と呼野層群の比較(予察) (Ammonoid discovered from Aohama coast, Shiranoe, Moji Ward, Kitakyushu City, Fukuoka Prefecture: Preliminary study for comparison between the Akiyoshi Limestone Group and Yobuno Group) 太田泰弘・藤川将之・太田正道・國光陽子・狩野彰宏. 秋吉台科学博物館報告, 第47号, 111-19.
- 2012/3 GEO&BIO 研究会活動の記録～学際的教育活動の試み～(2012 Annual Record of GEO & BIO Research Group) ; 宮田薫・太田泰弘・原賀いずみ・杉野広利・森三保・浦田健作・加藤久美子・白川正樹・富永重稔・高橋俊吾・花田秀揮・森ふさ恵・八百屋さやか・大橋直子・大澤得二・船井泰乃. ジオ&バイオ研究会報告書, 第1号, p1-33.
- 2011/5. 福岡県宮若市、下部白亜系関門層群中の石灰岩礫から産出したフズリナ類について(Fusulinoideans from the limestone clasts of the Lower Cretaceous Wakino Subgroup (Kanmon Group), Miyawaka City, Fukuoka Prefecture, Japan) 太田泰弘・阿部哲夫・黒河雅文・太田正道. 地質学雑誌 117 巻 5 号, 289-298.
- 2010/3. 国指定天然記念物七釜鍾乳洞学術本調査・会議報告書(中間報告1(Interim Scientific Report on the Nanatsugama Stalactite Cave forming rocks, Saikai City, Nagasaki Prefecture Japan, Educational Board of Saikai City, Nagasaki Prefecture). 長崎県西海市教育委員会, 1-7.
- 2009/4. 秋吉地域の常森層産ペルム紀腕足類:秋吉テレーンの付加した場所に関する化石証拠(Permian brachiopods from the Tsunemori Formation, Yamaguchi Prefecture, southwest Japan: Fossil evidence for the accretionary site of the Akiyoshi Terrane) 田澤純一・藤川将之・太田泰弘. 地質学雑誌 115 巻 4 号, 168-176
- 2009/4. *Yabeina cascadiensis*(Anderson) (Permian Fusulinacea) from San Juan Island, Washington, USA. Y. Ota, T. Yamagata and W. R. Danner. Regional Views(地域学研究), *Institute of Applied Geography, Komazawa University*, No.22, p. 17-45.

- 2009/4. 国指定天然記念物七釜鍾乳洞学術予備調査・会議報告書. 太田泰弘・太田正道・配川武彦・吉村和久・石原与四郎・諏訪勝郎. 長崎県西海市教育委員会. 27p.
- 2008/2. 広島県庄原地域における中期中新世備北層群産のケトテリウム類化石 (Cetotheres from the early Middle Miocene Bihoku Group in Shobara District, Hiroshima Prefecture, West Japan); 大塚裕之・太田泰弘, 比和科学博物館研究報告, 第49号, p.1-66, pls. 1-24.
- 2007/12. 鹿児島県沖永良部島天竜洞・迷土洞から産出した齧歯目標本 (Preliminary report on the specimens of Rodents from Tenryu-do Cave and Meido-do Cave, Okinoerabu Island, Kagoshima Prefecture, Japan); 西岡佑一郎・中川良平・太田泰弘・西川喜朗. 洞窟学雑誌, 第32巻, p. 30-34.
- 2006/12. Taphonomic study on Tooth Fossils of Vertebrates from “Branch 2” in Ojika-dô Cave on the Hirao-dai Karst Plateau, Fukuoka Prefecture, Japan; Shin Nunami, Ryohei Nakagawa and Y. Ota. *Journal of the speleological society of Japan*, v. 31, p. 36-41.
- 2006/3. 福岡県北九州市黒崎城跡における完新世の環境変遷.-特に縄文人の環境適応についての一考察-(Environmental change since the Middle Holocene at Kurosaki Castle Site in Kitakyushu City, Fukuoka Prefecture, South West Japan, with special reference to an adaptation of the Jomon people to the environmental change) ; 野井英明・太田泰弘・梅崎恵司. 北九州市立大学文学部紀要(人間関係学科), v. 13, 79-88.
- 2006/3. 芦屋町山鹿地区芦屋層群漸新世化石群調査報告 II. - 福岡県遠賀郡芦屋町山鹿所在漸新世化石群の調査 (Second Report of fossils from the Oligocene Ashiya Group, Yamaga, Ashiya Town, Fukuoka Prefecture); 太田泰弘・森井啓次. 福岡県文化財調査報告書, 2006. 3, 23p. 福岡県教育委員会.
- 2005/6. 福岡県平尾台牡鹿洞から新たに産出したナウマンゾウ臼歯片化石について (New tooth fossil of *Palaeoloxodon naumanni*(Makiyama), from Ojika-do Cave Deposits on the Hiraodai Karst Plateau, Fukuoka Prefecture, Japan); 沼波信・中川良平・太田泰弘. 日本洞窟学雑誌, v. 29, p. 35-38.
- 2005/3. *Maklaya* (Permian Fusulinoidea) from Kaerimizu area, Akiyoshi Plateau, Yamaguchi Prefecture, Japan; Y. Ota. *Bulletin of the Akiyoshi-dai Museum of Natural History*, (40), 15-33, pls. 1-5.
- 2004/3. 北九州市における非結晶質石灰岩礫岩の新産地 (A new locality of the non-crystalline limestone conglomerate in Kitakyushu City, Fukuoka Prefecture, Japan) ; 太田泰弘. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類 自然史, (2), p.1-6, pls. 1-2.

- 2003/3. *Misellina*(Permian Fusulinoidea) from the limestone conglomerate in the Dobaru Formation of the Lower Cretaceous Wakino Subgroup, Kitakyushu City, Fukuoka Prefecture, Japan; Y. Ota. *Bull. Kitakyushu Mus. Nat. Hist. Hum. Hist.*, Ser. A, (1), p.1-8, pl. 1.
- 2002/3. *Triticites* from Shii, Kokuraminami Ward, Kitakyushu City, Fukuoka Prefecture, Japan; Y. Ota. *Bull. Kitakyushu Mus. Nat. Hist.*, (21), p. 1-15, pls. 1-2.
- 2001/3. *Neoschwagerina* (Permian Fusulinacea) from limestone pebbles in the Dobaru Formation, the lower part of the lower Cretaceous Wakino Subgroup, in the Kitakyushu City, Japan; Y. Ota. *Bull. Kitakyushu Mus. Nat. Hist.*, (20), p. 1-15, pls. 1-2.
- 2000/3. *Parafusulina* (Permian Fusulinacea) from Hazegatoge, Kitakyushu City, Fukuoka Prefecture, Japan; Y. Ota. *Bull. Kitakyushu Mus. Nat. Hist.*, (19), p. 25-42, pls. 1-4.
- 1999/3. 「自然」 In. 伊良原-民俗文化財の調査 -福岡県文化財調査報告書, 第143集, 伊良原ダム関係文化財調査報告; 太田正道・太田泰弘. 福岡県教育委員会, p. 367-372.
- 1998/3. Middle Carboniferous to Early Permian Fusulinacean from the Akiyoshi Limestone Group, Southwest Japan; Y. Ota. *Bull. Kitakyushu Mus. Nat. Hist.*, (17), p. 1-105, pls. 1-8.
- 1997/3. Middle Carboniferous and Lower Permian fusulinacean biostratigraphy of the Akiyoshi Limestone Group, Southwest Japan. Part 1; Y. Ota. *Bull. Kitakyushu Mus. Nat. Hist.*, (16), p. 1-97.
- 1996/3. Middle Carboniferous and Lower Permian fusulinacean biostratigraphy of the Akiyoshi Limestone Group, Southwest Japan; Y. Ota. 九州大学博士論文 p. 1-330.
- 1995/11. 秋吉台北西部, 地獄谷地域の中期石炭紀-早期ペルム紀フズリナ化石帯について; 太田泰弘. 九州大学理学部, 研究報告, 地球惑星科学, v. 19, (1), p. 29-51
- 1995/3. 中華人民共和国, 貴州省貴陽市における国際二畳紀の層序・環境および資源に関するシンポジウム ISP' 94 参加して; 太田泰弘. 山口地学会誌, (34), p. 18-21.
- 1995/3. 美祢市伊佐丸山より産出した *Protriticites yanagidai* Y. Ota および *Protriticites masamichii* Y. Ota (石炭紀フズリナ類) の系統関係について (Phylogenetic consideration on *Protriticites yanagidai* Y. Ota and *Protriticites masamichii* Y. Ota (Carboniferous fusulinids) from Mt. Maruyama, Mine City, Southwest Japan); 太田泰弘・太田正道. 美祢市歴史民俗資料館調査研究報告, (11), p. 1-11.
- 1994/5. Upper Carboniferous fusulinids from Mt. Maruyama, Mine City, Yamaguchi Prefecture; Y. Ota. *Bull. Kitakyushu Mus. Nat. Hist.*, (13), p. 1-35, pls. 1-3.

- 1993/5. 秋吉石灰岩層群上部石炭系一下部ペルム系産フズリナ類化石群集の変遷—AK Route—秋吉台科学博物館前の資料について (Faunal change of the Upper Carboniferous to lower Permian fusulinaceans from the Akiyoshi Limestone Group, Southwest Japan. —On materials along the AK Route, adjacent to the Akiyoshi-dai Museum of Natural History); 太田泰弘・太田正道. 秋吉台科学博物館報告, 第 28 号, p. 1-P. 57, pls. 1-3.
- 1993/3. 秋吉石灰岩層群 AK Route (秋吉台科学博物館前)における上部石炭系一下部ペルム系境界付近のフズリナ化石群の変遷; 太田正道・太田泰弘. 石炭—ペルム系境界の策定に関する総合的研究 (平成 4 年度文部省科学研究補助金, 総合研究 (A), 研究成果報告書, p. 39-78.
- 1992/8. Fusuline Biostratigraphy of the Akiyoshi Limestone Group in the Jigoku-dani area, Southwest Japan; Y. Ota. Studies in Benthic Foraminifera Benthos' 90, Sendai, 1990, p. 369-379, Tokai University Press.
- 1992/2. 秋吉石灰岩層群における上部石炭—下部ペルム系産フズリナ化石群集の変遷と生層序学的検討 (AK Route—秋吉台科学博物館前について); 太田泰弘. 石炭—ペルム系境界の策定に関する総合的研究 (平成 4 年度文部省科学研究補助金, 総合研究 (A) :C/P B, 総研連絡紙, No. 2, p. 19-55.
- 1988/3. 広島県庄原市地域の中新世備北層群産鯨化石; 大塚裕之・太田泰弘. 昭和 62 年度, 文部省科学研究補助金, 総合研究 (A), 日本産海生哺乳類の生層序と古生物学的研究, p. 69-74.

【学会講演等】

- 2023. 3. 4. 福岡県平尾台に露出する石灰岩露頭 (凸部) の傾向と呼称について (予察的研究) (The trends and the Japanese names of limestone outcrops, exposed on the Hiraodai Limestone Plateau, Fukuoka Prefecture (Preliminary study)); 太田泰弘. 日本地質学会西日本支部 令和 4 年度総会・第 173 回例会 (島根大学), 0-16.
- 2022. 8. 20. 人は, 自然にふれあう機会から何をj得ているのか? ~コロナ禍の短い覚書~. 福岡県環境教育学会 第 25 回年会~みんなでつなぐ SDGs~. B5, 中村学園大学・短期大学部. (What do humans get out of the opportunities for being exposed to nature? ~A brief reminder during the covid-19 crisis); 太田泰弘. 福岡県環境教育学会 第 25 回年会 (中村学園大学・短期大学部), 発表要旨集, p. 12.
- 2020. 2 (みなし講演). 青少年期における地質学的, 自然体験の重要性について—藤田哲也博士の藤戸洞 (平尾台) の発見を例示して— (Importance of the geological and/or natural experiences during the transitional period from childhood to adulthood. —Focusing on the Fujito limestone cave discovered by Dr. Tetsuya

Fujita-); 太田泰弘, 日本地質学会西日本支部 令和元年度総会・第171回例会 (講演要旨集; みなし講演), 0-1, p. 4.

- 2019. 11. 社会科学的視点から見た洞窟学: 平尾台・藤戸洞を例として (Cave studies from a sociological perspective referring to Fujito limestone cave); 太田泰弘・安藤奏音. 日本洞窟学会第45回大会 (和歌山県白崎大会), 学術講演要旨集. p. 12.
- 2019. 9. 北九州の食のブランドを活用したジオ体験のデザイン (Basic designs for Geo Experience by utilizing the Kitakyushu Food Brand); 太田泰弘, 日本地質学会第126年学術大会 (山口大学), 講演要旨, p. 75.
- 2019. 8. 大地の視点からの国土理解の推進: 自然史系博物館のSDGsへのアプローチ (Promotion of further understanding of Japanese land from geological aspects: A Natural History Museum's Approach to SDGs); 太田泰弘. 福岡県環境教育学会 第22回年会 (久留米大学), 発表要旨集, p. 21.
- 2018. 12. 北九州のジオパーク活動における歴史気象学と伝説北九州のジオパーク活動における歴史気象学と伝説活用 について (Utilization of Historical Meteorology and Legend in the Kitakyushu Geopark Activities); 太田泰弘. 日本地質学会 第125年学術大会 つくば特別大会, (*In* 日本地質学会第125年学術大会, 講演要旨), p. 83.
- 2018. 12. 新潟県青海石灰岩 (下部ペルム系 Artinskian) の中からみいだされた洞窟充填リズムイト (Cave-infilling rhythmite occurred from Omi Limestone (Artinskian, lower Permian), Niigata Prefecture, central Japan); 柿崎喜宏・狩野彰宏・中田亮一・永石一弥・太田泰弘・柏木健司. 日本地質学会 第125年学術大会 つくば特別大会, (*In* 日本地質学会第125年学術大会, 講演要旨), p. 102.
- 2018. 9. カナダ・ブリティッシュコロンビア州 Cache Creek 近郊のペルム系 Marble Canyon limestone 産フズリナ類の多様性の減少と多産する Hemigordiopsidae について (Reduced fusuline diversity and the abundant Hemigordiopsidae of the Permian Marble Canyon limestone near Cache Creek, British Columbia, Canada); 太田泰弘・牧野帆乃香. 日本地質学会第125年学術大会 (北海道大学・高等教育推進機構), 講演要旨, p. 139.
- 2017. 9. Hat Creek (British Columbia, Canada) 地域のMarble Canyon 石灰岩中に見られるフズリナ類の多様性の変化について (予報) (Fusulinid diversity changes in Marble Canyon limestone (Hat Creek, BC, Canada) -preliminary study); 太田泰弘・牧野帆乃香・佐野弘好. 日本地質学会第124年学術大会 (愛媛大学・城北キャンパス), 講演要旨, p. 120.
- 2017. 9. カナダ, ブリティッシュコロンビア州南部, Cache Creek Terraneのペルム系 Marble Canyon石灰岩 (中～上部Guadalupian) の岩相 (Microfacies of the Permian Marble Canyon Limestone (Middle to Upper Guadalupian) of Cache Creek Terrane in

southern British Columbia, Canada); 牧野帆乃香・佐野弘好・太田泰弘. 日本地質学会第124年学術大会 (愛媛大学・城北キャンパス), 講演要旨, p. 93.

- 2017. 8. ジオパークと地域活性化 (講演1) (Geopark Activities and Local Revitalization, Lecture 1) 太田泰弘. 福岡県環境教育学会第20回年会, ~地域活性化と環境教育~ 要旨集, p. 1.
- 2017. 8. コンパクト化時代における自然保護と活用の重要性について (Conservation and Utilization of Natural Resource in the 'Shrinking Cities' movement); 太田泰弘. 福岡県環境教育学会第20回年会, ~地域活性化と環境教育~ 要旨集, p. 17
- 2017. 8. 北九州の魅力可視化するジオ&バイオ研究会の活動 (Activities of the Geo & Bio Research Group to visualize the attractive Kitakyushu City); 杉野広利・太田泰弘. 福岡県環境教育学会第20回年会, ~地域活性化と環境教育~ 要旨集, p. 19.
- 2017. 6. カナダ, ブリティッシュコロンビア州南部Cache Creek村付近のMarble Canyon 石灰岩から産出した*Neoschwagerina*属について (予報) (*Neoschwagerina* from Marble Canyon limestone near Cache Creek, southern British Columbia, Canada: a preliminary study); 太田泰弘・佐野弘好・牧野帆乃香. 日本古生物学会2017年年会講演予稿集, 北九州市 (福岡県), p. 32.
- 2017. 6. 岐阜県舟伏山東部, 美濃帯のペルム系円原石灰岩 (Permian Enbara Limestone of Mino Belt in eastern Funabuseyama area, Gifu); 佐野弘好・太田泰弘・杵山哲男. 日本古生物学会2017年年会 講演予稿集, 北九州市 (福岡県), p. 31.
- 2017. 6. 岐阜県山県市円原地域で発見された*Parafusulina*属と*Cancellina*属が共産する灰白色石灰岩の地質年代について (The age of the grey-white limestones bearing the genera *Parafusulina* and *Cancellina* in Enbara, Yamagata City, Gifu Prefecture); 太田泰弘・佐野弘好・杵山哲男. 日本古生物学会2017年年会 講演予稿集, 北九州市 (福岡県), p. 31.
- 2017. 6. 美濃帯のペルム系円原石灰岩からイシサンゴ化石を発見 (Discover of a scleractinian coral from Permian Enbara Limestone in the Mino Belt); 杵山哲男・佐野弘好・太田泰弘. 日本古生物学会2017年年会 講演予稿集, 北九州市 (福岡県), p. 32.
- 2016. 9. ジオパーク構築におけるpark boundaryの重要について (On the importance of the park boundary in case of creating the Geopark); 太田泰弘. 日本地質学会第123年学術大会 (東京・桜上水), 講演要旨, p. 85.
- 2016. 8. 小倉北区藍島の魅力を活用した自然体験型環境教育 (An effective environmental education through the nature experience at Ainoshima Island, Kitakyushu City,); 太田泰弘・野井英明・梅崎恵司. 福岡県環境教育学会第19回年会, ~2030アジェンダと環境教育~要旨集, p. 28.

- 2016. 8. 平尾台の価値を“見える化”する北九州ジオパーク活動 (Kitakyushu Geopark Activities for identifying and visualizing the value of Hiraodai Limestone Plateau) ; 太田泰弘, 日本洞窟学会第42回大会 (荏田町平尾台大会) プログラム要旨集, p. 26
- 2016. 8. 環境教育への応用が期待できる北九州市とその周辺地域のフィールドと観察ガイド資料 (Draft of the Kitakyushu Field Guide Book for Environmental education) ; 野井英明・太田泰弘・梅崎恵司, 福岡県環境教育学会第19回年会, ~2030アジェンダと環境教育~要旨集, p. 3.
- 2015. 9. 平尾台の保護の歴史に見る先進的取り組みとジオパーク活動による活用 (Advanced efforts known from the history of the conservation on the Hiraodai Limestone Plateau and the utilization for Geopark activities) ; 太田泰弘・久下洋一, 日本地質学会第122年学術大会 (信州大学長野), 講演要旨, p. 76.
- 2015. 9. 岐阜県山県市円原地区の美濃帯石灰岩から産出した巻の解けた微小なフズリナ類について (続報) (Minute fusulinoideans with uncoiled shells from the limestone of the Mino Belt, Enbara area, Yamagata City, Gifu Prefecture (further study) ; 太田泰弘・佐野弘好・杵山哲男, 日本地質学会第122年学術大会 (信州大学長野), 講演要旨, p. 133.
- 2015. 8. 化石産地を活用した天然資源の有限性の教育普及 (Educational activities of the finite nature of natural resources utilizing fossil localities) ; 太田泰弘・野井英明, 福岡県環境教育学会第18回年会, 発表要旨集, p. 11.
- 2015. 8. 貫・曾根地域—環境教育のフィールドとしての可能性 (Nuki and Sone regions - their potential as a place for the field research in environmental education) ; 野井英明・太田泰弘・梅崎恵司, 環境教育学会第18回年会, 発表要旨集, p. 12.
- 2014. 9. 岐阜県山県市円原の美濃帯扇形伏山石灰岩から産出した扇形の殻を持つ微小なフズリナ類とその生息環境について (Minute fusulinoideans having fan-shaped shells from Funafuseyama Limestone of Mino Terrane, Enbara, Yamagata City, Gifu Prefecture and their habitats) ; 太田泰弘・佐野弘好・杵山哲男, 日本地質学会第121年学術大会 (鹿児島大), 講演要旨, p. 138.
- 2014. 5. 地質学的証拠に基づいた地殻流体が関与する岩石破壊過程の解明 (Generation process of brecciated marble Hiraodai karst, Kyushu, Japan) ; 石山沙耶・安東淳一・中井俊一・太田泰弘・ダス カウシク, 日本地球惑星科学連合2014年大会, 予稿集, SCG62 - P03.
- 2014. 9. 地殻流体によって引き起こされた岩石破碎現象の解明 (Process of rock fracturing triggered by geofluid) ; 石山沙耶・安東淳一・Kaushik Das・太田泰弘・中井俊一, 日本地質学会第121年学術大会 (鹿児島大), 講演要旨, p. 119.

- 2014. 8. ジオパーク活動と持続可能な開発のための教育 (ESD) 活動の比較 (Comparative studies of ESD activities and Geopark activities) ; 太田泰弘・平山静男・野井英明. 福岡県環境教育学会第17回年会, 要旨集, p. 22.
- 2014. 6. 岐阜県山県市田原の美濃帯舟伏山石灰岩から産出した巻の解けた微小なフズリナ類について (予察的研究) (Minute fusulinoideans with the uncoiled whorl from Funafuseyama Limestone of Mino Terrane, Enbara, Yamagata City, Gifu Prefecture (Preliminary study)); 太田泰弘・佐野弘好・杵山哲男. 日本古生物学会2014年年会 (九州大) , 講演予稿集, p. 27.
- 2013. 9. 下部白亜系脇野亜層群高津尾層の石灰岩礫に産するフズリナのタフォノミーについて (Taphonomy of fusulinids in the limestone pebbles from the Takatsuo Formation of the Lower Cretaceous Wakino Subgroup); 太田泰弘・石山沙耶・安東淳一. 日本地質学会第120年学術大会, 講演要旨, p. 129.
- 2013. 9. 地質学的証拠に基づいた地殻流体が関与した岩石破壊過程の解明 (Process of rock fracturing caused by geofluid: Focus on geological evidence); 石山沙耶・安東淳一・中井俊一・太田泰弘. 日本鉱物科学会 (筑波大学) 講演要旨集, 水-岩石相互作用, p. 27. (筆頭著者が日本鉱物科学会 ポスター研究発表最優秀賞受賞)
- 2013. 8. ジオ・ツーリズムの理解と涵養 (Understanding and Cultivation of Geo-Tourism); 太田泰弘・平山静男・野井英明. 福岡県環境教育学会第16回年会 (久留米大学), 発表要旨集, p. 24
- 2013. 5. 平尾台カルスに露出するカタクレサイト脈の成因 (Mechanism of cataclasite occurring in Hiraodai Karst region); 石山沙耶・安東淳一・中井俊一・太田泰弘. 日本地球惑星科学連合2013年大会 予稿集, 地球構成物質のレオロジーと物質移動, SIT38 - P02.
- 2013. 2. 生涯学習活動の多様化に伴う、新しい手法に基づく小規模露頭解説の必要性について (Necessity of new explanation methods for the small-scale outcrops, due to the diversification of the lifelong learning); 太田泰弘・野井英明・ジオ&バイオ研究会. 日本地質学会西日本支部第163回例会 (島根大) 講演要旨集, p. 6.
- 2012. 9北九州市小倉南区高津尾に分布する平板状の石灰岩礫中に産するフズリナについて (Preliminary study on fusulinoideans in flat limestone pebbles from Takatsuo, Kokuraminami Ward, Kitakyushu City, Japan); 太田泰弘・石山沙耶. 日本地質学会大119年学術大会 (大阪府立大)、講演要旨, p148.
- 2012. 8 環境倫理に至る野外観察; 野井英明・太田泰弘・梅崎恵司. 日本環境教育学会第23回 (東京) 研究発表要旨, p159.
- 2012. 1. 福岡県北九州市青浜海岸で発見された石炭紀アンモノイドについて (Carboniferous ammonoid discovered from Aohama coast, Kitakyushu City, Fukuoka

Prefecture); 藤川将之・太田泰弘・太田正道・國光陽子・狩野彰宏. 日本古生物学会第161回例会, 講演予稿集, p. 32.

- 2012. 1. 秋吉石灰岩・青海石灰岩の石炭紀腕足類 *Latiproductus edelburgensis* (Phillips, 1836) (Carboniferous brachiopod *Latiproductus* (Phillips, 1836) from the Akiyoshi Limestone and the Omi Limestone, Japan); 茨木洋介・太田泰弘・藤川将之. 日本古生物学会第161回例会, 講演予稿集, p. 33.
- 2011. 11. 洞窟保全とジオの視点を基軸とした学際的教育活動 (Conservation of caves, and the interdisciplinary teaching, based on Geosciences); 太田泰弘. 日本洞窟学会第37回大会(九州大学), 講演要旨集, p. 5.
- 2011. 9. 博物館の役割と貢献(中国ジオパークに学ぶ) (The roles and contributions of Museum (Case studies of Chinese Geoparks)); 太田泰弘・野井英明. 日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会, 講演要旨集(茨城大学). p62.
- 2011. 9. 博物館の役割と貢献(中国ジオパークに学ぶ) (The roles and contributions of Museum (Case studies of Chinese Geoparks)); 太田泰弘・野井英明. 日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会, 講演要旨集(茨城大学). p62.
- 2011. 8. ジオパーク活動を活用した新しい環境教育 (New environmental education using Geopark activities) 太田泰弘・野井英明. 福岡県環境教育学会第14回年会(福岡工業大学), 発表要旨集, p. 12.
- 2011. 2. 地質・古生物学に学術的視座を置く中国博物館事情について (Geological and Paleontological Museums in China); 太田泰弘・國光陽子・横山由佳・古山精史郎. 第160回日本地質学会西日本支部例会プログラム(広島学), 0-21, p. 23.
- 2010. 9. ジオトレイルの環境教育への応用 (Application of Geotrail to Environmental Education). 野井英明・太田泰弘. 日本地質学会第117年学術大会講演要旨(富山大学), p. 51.
- 2010. 9. エネルギー環境教育のための都市型ジオツアーの試み (Urban Geotour for Energy Environmental Education). 太田泰弘・金子二康・古賀久美子. 日本地質学会第117年学術大会講演要旨(富山大学), p. 50.
- 2010. 8. ジオの視点を利・活用した環境教育と地域振興 (Environmental education and regional development by using Geological aspects) ; 太田泰弘・野井英明. 福岡県環境教育学会第13回年会(九州女子大学), 発表要旨集, p. 20.
- 2010. 8. 化石を用いたエネルギー環境教育—東田サマースクールの試みと実践事例 (Energy and Environmental educations using the fossils—Case study on the Higashida Summer School—); 太田泰弘・金子二康・古賀久美. 福岡県環境教育学会第13回年会(九州女子大学), 発表要旨集, p. 19.
- 2010. 5. ジオツアーの環境教育効果—その効果を生むジオツアーの特性について (Effect of Geotour on the environmental educations); 野井英明・太田泰弘・梅崎

恵司. 日本環境教育学会21回大会(沖縄県男女共同参画センター), 研究発表講演要旨集, p. 135.

- 2010. 4. 地質多様性の視点を取り入れた北九州発環境教育プログラム(Kitakyushu environmental education program incorporating the viewpoint of geological diversity); 矢野正孝・太田泰弘・高橋俊吾・平野國臣・原賀いずみ・野井英明. 北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会研究発表会(要旨):わたしたちの自然史, 2011, No. 12, p. 21
- 2010. 2. 長崎県西海市七釜鍾乳洞が発達する母岩に関する予察的研究(Reconnaissance study of the Nanatsugama Stalactite Cave forming rocks, Saikai City, Nagasaki Prefecture Japan); 太田泰弘・太田正道・配川武彦. 第158回日本地質学会西日本支部例会および2009年度支部総会プログラム(福岡大学), p. 11.
- 2009. 12. 長崎県西海市七釜鍾乳洞の特徴について(Geological properties of The Nanatsugama Stalactite Cave, Saikai City, Nagasaki Prefecture ; 配川武彦・太田泰弘・太田正道. 山口地学会, 山口県博.
- 2009. 9. 福岡県宮若市、下部白亜系関門層群脇野亜層群中の石灰岩礫から産出した Neoschwagerinids について(Neoschwagerinids form the limestone pebbles of the Lower Cretaceous Wakino Subgroup); 太田泰弘・阿部哲夫・黒河雅文・太田正道. 日本地質学会第116年学術大会講演要旨(岡山理科大学), p. 121. .
- 2009. 9. 七釜鍾乳洞周辺の地質と古生物(予報)(Preliminary study of Geology and Paleontology of the Nanatsugama Stalactite Cave); 太田泰弘・太田正道・配川武彦. 日本洞窟学会第35回大会秋吉台大会資料集, p. 49.
- 2009. 8. 地学教育と環境教育の側面からの展示効果測定について(ジオパークに関する理解促進の試み)(Case study of the understanding the effects of the museum exhibitions, using a quiz); 太田泰弘・野井英明. 福岡県環境教育学会第12回年会発表要旨集(久留米大学), p. 32.
- 2009. 7. 環境と人間の歴史を考えるジオツアー—環境教育への応用—北九州市間島の例—(Geotour for studying on the environmental change and human history- its application to the environmental education-Case study in the Mashima Island, Kitakyushu City); 野井英明・太田泰弘・梅崎恵司, 日本環境教育学会(東京)第20回研究発表要旨, p. 60.
- 2009. 2. 北九州市のアラトコンカ科(二枚貝類)の活用(予報)(Preliminary Study on Utilization of Alatoconchidae (Bivalves) in Kitakyushu City, Fukuoka Prefecture); 太田泰弘・花田秀揮・黒河雅文・百合野俊彦; 第157回日本地質学会西日本支部例会, p. 14, 0-21.
- 2009. 1. 福岡県宮若市に分布する下部白亜系関門層群脇野亜層群中に発見されたフズリナ石灰岩礫について(Limestone conglomerates with fusulinids discovered from the

Wakino Subgroup of the Lower Cretaceous Kanmon Group, Miyawaka City, Fukuoka Prefecture, Japan); 太田泰弘・黒河雅文・阿部哲夫・太田正道. 日本古生物学会第158回例会(沖縄)講演要旨集, p. 38.

- 2008. 9. 地学教育と環境教育の視点からのアウトリーチ(実践事例)(Earth Science Education and Environmental Education); 太田泰弘・野井英明・井村隆介. 日本地質学会第115年学術大会講演要旨, p. 266.
- 2008. 8. 日本洞窟をジオパークの視点から評価するためのデータベース構築の試み(Some considerations in the construction of the Database as a tool to evaluate Japanese Caves for Geopark); 太田泰弘・野井英明・千葉伸幸. 日本洞窟学会第34回大会・浜松大会公園発表・ポスター発表要旨, ポスターp. 8.
- 2008. 8. ジオパークの環境教育への活用(Practical use of the Geopark for Environmental Education); 太田泰弘・野井英明・井村隆介・福田修二・平山静男・花田秀揮. 福岡県環境教育学会第11回年会:持続可能な環境の未来を考える一福岡発グリーン・テクノロジー予稿集, p. 3.
- 2008. 8. 遺跡観察の環境教育効果を練り込んだ身近なジオパーク構築の試み(Attempts to construct a familiar Geopark with an environmental education effect by using archeological sites);野井英明・太田泰弘・梅崎恵司・平山静男・福田修二, 日本環境教育学会第19回大会(東京)研究発表会要旨集, p. 181.
- 2008. 7. 常森層産ペルム紀腕足類:秋吉テレーンの付加した場所に関する化石証拠(Permian Brachiopoda from the Tsunemori Formation: Fossil evidence for the accretionary site of the Akiyoshi Terrane); 田沢純一・藤川将之・太田泰弘. 日本古生物学会2008年年会(仙台市, 宮城県), 講演予稿集, p. 31.
- 2008. 2. ジオパークとしての日本洞窟の可能性(Feasibility study of the Geopark for the Japanese Caves); 太田泰弘. 日本地質学会西日本支部第153回例会および2008年度支部総会プログラム. p. 22.
- 2007. 9. Deadman Bay Volcanics (San Juan Island, Washington, USA)産のYabeina(Permian Fusulinacea)について【Yabeina (Permian Fusulinacea) in the Deadman Bay Volcanics, the San Juan Island, north Washington, USA】; 太田泰弘・山縣毅. 日本地質学会第114年学術大会講演要旨, p. 149.
- 2007/9. 博物館における微化石のアウトリーチの試み(Outreach of microfossils in KMNH museum);野井秀明・太田泰弘. 日本地質学会第114年学術大会講演要旨, p. 322.
- 2007/8. 化石と地球惑星科学のアウトリーチから環境教育へ(Environmental Education and Outreach program through fossils and Earth Science education); 太田泰弘・野井秀明. 福岡県環境教育学会, 第10回年会(10周年記念)テーマ:「環境教育・フォアナ・オール」. 発表要旨集. p. 6.

- 2007/5. 遺跡観察による環境教育—環境と人間のかかわりを時間軸に沿って「見る」効果—(Environmental education for university students, using local histories and ruins); 野井秀明・太田泰弘・梅崎恵司. 日本環境教育学会第18回大会(島根), 講演要旨, 1F7, p. 68.
- 2007/2. セカンドスクールとしての博物館, 地層はぎ取り資料の活用 (Practical use of a new display of the geological strata for the second school program in KMNH); 福田修二・中村英嗣・松永和也・堀美知子・太田泰弘・梅崎恵司・佐藤浩司・野井英明. 日本地質学会西日本支部第153回例会, 講演要旨P. 19.
- 2006/9. Deadman Bay Volcanics (San Juan Island, Washington, USA) のフズリナについて(予報) (Preliminary study of fusulinids in the Deadman Bay Volcanics, the San Juan Island, north Washington, USA); 太田泰弘・山縣毅, 日本地質学会第113年学術大会講演要旨, p. 117.
- 2006/8. 平尾台牡鹿洞Branch2から産出した脊椎動物歯化石に見られる顕著な摩耗状態 (Notable abrasion of tooth fossils of vertebrates from the Branch 2 in Ojika-do Cave on the Hiraodai- Karst Plateau, Fukuoka Prefecture, Japan); 沼波信・中川良平・太田泰弘. 日本洞窟学会第32回大会(東京大会)要旨集, p. 17.
- 2006/8. 福岡県北九州市黒崎城跡(遺跡)における完新世中期以降の環境変遷史-特に縄文時代の“礫積み遺構”について (Environmental change since the Middle Holocene at Kurosaki Castle Site in Kitakyushu City, Fukuoka Prefecture, South West Japan, with a special reference to a remnant build by piled gravels in Jomon period.); 野井英明・太田泰弘・梅崎恵司. 日本第四紀学会講演要旨集(日本第四紀学会2006年創立50周年記念大会:首都大学東京), p. 114.
- 2006/8. 地層中に記録された環境変遷史解読と環境教育への応用-黒崎城跡(遺跡)を例として. (Reading the paleoenvironmental records within the stratified layers and its application to the environmental education-The case study of the Kurosaki Castle Site-); 太田泰弘・野井英明・中村英嗣・梅崎恵司・平山静男. 福岡県環境教育学会発表要旨集, p. 8.
- 2006/7. 博物館における地学教育のための参加・体験型企画展の試み (Trial of Edutainment for the Geoscience education during the temporary exhibition of the Museum); 太田泰弘・中村英嗣・松永和也・堀美智子・福田修二. 日本地質学会, 近畿支部・四国支部・西日本支部合同例会, 講演要旨, p. 3.
- 2006/2. 黒崎城跡の発掘調査に伴う地層はぎ取りの試み (Wall size sampling of stratified layers at the Kurosaki Castle Site); 太田泰弘・平山静男・中村英嗣・梅崎恵司・佐藤浩司・野井英明. 日本地質学会西日本支部第152回例会, 講演要旨集, 0-11.

- 2005/9. 牡鹿洞(福岡県, 平尾台)から新たに発見されたナウマンゾウ臼歯化石の意義 (Significance of New Molar Tooth Fossil of *Palaeoloxodon naumanni* (Makiyama) from Ojika-do Cave Deposits on the Hiraodai Karst Plateau, Fukuoka Prefecture, Japan); 沼波 信・中川良平・太田泰弘, 第31回日本洞窟学会大会(多賀町大会)報告, in ケイビ
ングジャーナル, 2006, (26), p. 25-26.
- 2004/6. 山口県秋吉台, 帰り水から産出する *Maklaya* 属の再検討 (Re-examination of the
genus *Maklaya* in the Kaerimizu doline, Akiyoshi limestone plateau, Yamaguchi
Prefecture); 太田泰弘. 日本古生物学会2004年年会, 講演予稿集 p. 85.
- 2004/9. 山口県秋吉台, 帰り水より産出したペルム紀のフズリナ: *Maklaya* 属の1種の系
統的位置 (Phylogenetic position of a species of the genus *Maklaya* (Permian
Fusulinoidea) from Kaerimizu, Akiyoshi-dai, Yamaguchi Prefecture); 太田泰弘.
日本地質学会 第111年学術大会(個人講演), 講演要旨, p. 117.
- 2004 /8. 過去の生物の変遷に基づいた環境教育の試み (Attempt to the environmental
education using fossils for children); 太田泰弘. 福岡県環境教育学会第7回年会,
発表 要旨 p. 31.
- 2003/12. 北九州市に分布する非結晶質石灰岩礫の供給源について (The provenance of
the non- crystalline limestone conglomerates in Kitakyushu City, Fukuoka
Prefecture, Japan); 太田泰弘. 日本洞窟学会第29回大会(北九州大会), 講演要旨,
p. 12-13.
- 2003/9. 地質時代の大量絶滅と環境教育 (Mass extinction in the geologic pass and
environmental education); 太田泰弘. 日本地質学会第110年学術大会, 講演要
旨, p. 192.
- 2003/7. 自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)の古生物礁複合体復元模型について
(The Georama of the Paleo-organic reef complex in KMNH); 太田泰弘. 日本地質
学会西日本支部会報(123), p. 7.
- 2002/9. 福岡県北九州市小倉南区櫛ヶ峠に分布する礫岩から新に 産出したフズリナ化
石 (New fusulinacean specimens from Hazegatoge, Kitakyushu City, Fukuoka
Prefecture, Japan); 太田泰弘. 日本地質学会第109年学術大会, 講演要旨 p. 149.
- 2001/9. 福岡県北九州市小倉南区志井に分布する礫岩から産出するフズリナ化石につ
いて (Fusulinaceans - bearing the conglomerate found in Shii, Kokuraminami Ward,
Kitakyushu City, Fukuoka Prefecture, Japan); 太田泰弘. 日本地質学会108年学術
大会(個人講演), 講演要旨, p. 128.
- 2000/9. 福岡県北九州市から産出するフズリナ化石 (Fusulinaceans from Kitakyushu
City, Fukuoka Prefecture, Japan. Akiyoshi, Southwest Japan); 太田泰弘. 日本地
質学会107年学術大会(個人講演), 講演要旨, p. 134.

- 2000/3. 北九州市小倉南区より産出したフズリナ化石について(Fusulinaceans from the Kokuraminami Ward, Kitakyushu City, Japan) ; 太田泰弘. 日本地質学会西日本支部個人講演要旨(山口大学), 西日本支部会報, No116, p. 7.
- 1997/10. 秋吉生物礁複合体におけるフズリナ化石群集のかたよりについて(Unbalanced fusulinacean distribution with the Akiyoshi organic reef complex, Southwest Japan); 太田泰弘. 日本地質学会 104年学術大会(個人講演), 講演要旨, p. 150.
- 1996/4. 秋吉台北西部, 地獄谷地域の中期石炭紀一早期ペルム紀フズリナ化石帯(On the Middle Carboniferous to Early Permian zones in the Jigoku-dani area, Akiyoshi, Southwest Japan); 太田泰弘. 日本地質学会103年学術大会(個人講演), 講演要旨 p. 139 .
- 1993/4. 秋吉石灰岩層群, 上部石炭系産フズリナ化石群について(Upper Carboniferous fusulinaceans from the Akiyoshi Limestone Group, Southwest Japan) ; 太田泰弘. 日本地質学会100年学術大会(個人講演), 講演要旨, p. 225.
- 1992/4. 秋吉石灰岩層群上部石炭一下部ペルム系産フズリナ化石群集の変遷について(Upper Carboniferous and lower Permian fusulinaceans from the Akiyoshi Limestone Group, Southwest Japan) ; 太田泰弘. 日本地質学会西日本支部個人講演要旨(鹿児島大学), 西日本支部会報, No. 99, p. 8.
- 1992/1. 秋吉石灰岩層群におけるフズリナ化石群集の変遷と生層序学的検討(Fusuline Biostratigraphy and the change in fusuline assemblages of the Akiyoshi Limestone Group, Yamaguchi Prefecture); 太田泰弘. 日本古生物学会1992年年会予稿集, p. 70.
- 1991/12. 秋吉石灰岩層群におけるフズリナ化石群集の変遷と生層序学的検討; 太田泰弘・太田正道. 石炭一ペルム系境界の策定に関する総合的研究:平成4年度文部省科学研究補助金, 総合研究(A), 第2回, 研究集会(新潟大学教養部)講演要旨.
- 1990/8. Fusuline Biostratigraphy of the Akiyoshi Limestone Group in the Jigoku-dani area, Akiyoshi Southwest, Japan; Y, Ota. 国際底生有孔虫会議(Fourth International Symposium on Benthic Foraminifera) (1990/9. 28-10. 2):(宮城県仙台)個人講演.
- 1990/8. 秋吉台地獄谷地域における秋吉石灰岩層群の有孔虫生層序(Biostratigraphy of the Akiyoshi Limestone Group in the Jigoku-dani area, Akiyoshi, Southwest Japan); 太田泰弘. 日本地質学会, 西日本支部個人講演要旨(福岡大), 西日本支部会報, No. 95, p. 3-4.

【雑文等】

- 2016/3. ジオサイトガイド「平尾台」北九州ジオパーク構想. 北九州ジオパーク推進連絡会(執筆協力).

- 2016/3. ジオサイトガイド「若松北海岸」北九州ジオパーク構想. 北九州ジオパーク推進連絡会（執筆協力）.
- 2015/11. 北九州ジオパーク構想. ドコエコ！キタQ, 創刊号, 2015, vol. 1. 北九州市環境局（執筆協力）.
- 2015/10. ～おめでとう！Mine秋吉台ジオパーク！～「平尾台と秋吉台を、比較してみました。」. 太田泰弘, いのちのたび博物館メールマガジン【メル博】.
- 2015/8. 「科学に親しむ」高芝菜穂子. 毎日新聞(2015年8月5日).（取材協力）
- 2015/4北九州ジオパーク構想. かるかる,（公財）北九州市芸術文化振興財団, 太田泰弘・馬場稔. 2015年4月号, v. 235, p. 2.
- 2015/3. 3億年の時間旅行（北九州ジオパーク構想）ジオサイトガイド. 北九州ジオパーク推進連絡会（執筆協力）.
- 2014/11. 大地の恵みというアドバンテージを学び、守り、楽しみ、活かす！北九州ジオパーク活動！！. 太田泰弘, いのちのたび博物館メールマガジン【メル博】.
- 2014/4. 藍島の地球科学的なみどころ; 太田泰弘・三宅博之・平山静男・後藤加奈子・野井英明・白石政則. 福岡県環境教育学会第28回例会（資料）藍島巡検案内書, p. 1-7.
- 2014/4. 藍島の地球科学的なみどころ; 太田泰弘・三宅博之・平山静男・後藤加奈子・野井英明・白石政則. 福岡県環境教育学会第28回例会（資料）藍島巡検案内書, p. 1-7.
- 2014/3. 北九州市の最近の取り組み(1)ジオパーク活動へのアプローチ(準会員ほか). 太田泰弘, 福岡県環境教育学会ニュースレターV. 45, p. 5-6.
- 2014/1. 芦屋町の大地と化石について; 太田泰弘, 崗(芦屋町郷土史研究会), 第40号, p. 1-4.
- 2014/1. ニュースのツボがわかるなるほど地図帳 日本2014 昭文社 鍾乳洞; 太田泰弘 (執筆協力), p. 111-112.
- 2013/3. 22 フズリナ「平尾台の成り立ち伝え」 太田泰弘. 西日本新聞おもしろ発見、いのちのたび博物館
- 2012/10. 「人類共通の財産」岩屋・遠見ヶ鼻の芦屋層群、財団法人北九州都市協会, (316), p. 25.
- 2012/4. 22小川俊一(西日本新聞2012. 4. 22記事)「県天然記念物 岩屋・遠見ヶ鼻の芦屋層群」執筆協力
- 2011/8. 皿倉山からの景観～地球の変化を身近に感じることの重要性. 太田泰弘, ひろば北九州, 財団法人北九州都市協会, (302), p. 25.
- 2011/2. ジオ・シンポジア2010 in 北九州を開催して; 太田泰弘・平野國臣・矢野正孝・高橋俊吾・原賀いずみ・金子二康・古賀久美子・上野晶子・野井英明, わたしたちの自然史(北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会誌), (114), p. 18-19.
- 2010/5. 「平尾台カルスト」. 太田泰弘 (執筆協力). 日本列島ジオサイト地質百選II, オウム社, 144-145.

- 2010/3. 地質学的多様性をとどめた地質百選「平尾台」. 太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州都市協会, (285), p. 39.
- 2009/4. .地球環境の変動物語る珪化木. 太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州都市協会, (274), p. 11.
- 2009/2. 5月10日(地質の日)オープンした ぼけっとミュージアム「地球と生命」(A theme exhibition of “Life on the Earth” on Geology Day); 太田泰弘, 地質ニュース(654), p. 56-59.
- 2009/2. 旅案内 日本全国地図 1:350,000; 太田泰弘・千葉伸幸(執筆協力). 朝日新聞社, 144p.
- 2009/2. ぼけっとミュージアムNo.1 「地球と生命」の活用; 花田秀揮・太田泰弘, わたしたちの自然史(北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会誌), (106), p. 12-13.
- 2008/5. ジオパーク平尾台; 太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州都市協会, (263), p. 21.
- 2007/11. 自然:鍾乳洞～まだまだ新発見の可能性～; 太田泰弘・後藤聡(執筆協力). 日本なるほど知図帳2008(知れば知るほどみえてくる!!)昭文社, p. 88, 89,
- 2007/11. 地球に思いをはせて! 太田泰弘. わたしたちの自然史(北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会誌), (100), p. 62.
- 2007/8. 化石を利用した環境教育を模索して; 太田泰弘. 福岡県環境教育学会 2007, ～豊かな心 五感を育む環境教育～. 創立10周年記念誌, p. 14.
- 2007/4/7. アンモナイト/宝石に似た美しい輝き; 太田泰弘. いにしえ探訪, 西日本新聞(北九州版).
- 2007/4. 学芸員のよもやまばなし・化石にまつわる最近の話題～動物はどこで誕生したのか～. 太田泰弘. いのちのたび新聞(平成19年4月号). 北九州市立いのちのたび博物館.
- 2007/4. 日本の鍾乳洞. 全国各地の鍾乳洞には, それぞれどんな特徴があるのか?: 太田泰弘・後藤聡(執筆協力). まっぷる選書4. 地図やししか知らない!? 日本のひみつ〈なるほど地図BOOK〉, 昭文社, p. 108-118.
- 2007/1. 時空を超えた化石の旅; 太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州都市協会, (247), p. 23.
- 2006/11/18. 貝収集した縄文人想起/黒崎城跡; 太田泰弘. いにしえ探訪, 西日本新聞(北九州版).
- 2006/10. 第30回日本洞窟学会大会(平尾台大会)報告; 太田泰弘. ケイビングジャーナル, 日本洞窟学会, (26), p. 39-62.
- 2006/10. 自然史友の会共催、春の企画展化石王(カセキング)三葉虫-発掘体験・レプリカづくり一開催報告; 原田啓一・藤田吉弘・太田泰弘. 私たちの自然史(北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会誌), (97), p. 16-17.

- 2006/3. 大発見？北九州一のフズリナ観察スポット！？国際海運会館の石材は、どこから来たのか！！；花田秀揮・坂本卓也・太田泰弘. 私たちの自然史(北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会誌), 2006, (95), p. 20-23.
- 2006/6. 黒崎駅近くで発掘された「自然貝層」；太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州都市協会, (240), p. 35.
- 2006/01/14. 道真の伝説が込められ/梅花石；太田泰弘. いにしえ探訪, 西日本新聞(北九州版).
- 2005/08/20. 生活に適した形に進化/三葉虫；太田泰弘. いにしえ探訪, 西日本新聞(北九州版).
- 2005/07/23. 平尾台の成り立つ示すフズリナ化石；太田泰弘. いにしえ探訪, 西日本新聞(北九州版).
- 2005/7. 洞窟探検家ケイバーの探検と冒険；太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州都市協会, (227), p. 23.
- 2005/04/02. 化石/物語る生物の「変遷史」；太田泰弘. いにしえ探訪, 西日本新聞(北九州版).
- 2005/2. 文化財としての地質遺産「梅花石岩層」(九州地区連合会)；太田泰弘. 月刊建設, 社団法人全日本建設技術協会, 49, p. 48-49.
- 2004/7. 生物は今「6回目の大絶滅期」；太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州都市協会, (216), p. 23.
- 2003/12. 日本洞窟学会第29回大会(北九州大会)概要報告；太田泰弘. ケイビングジャーナル, 日本洞窟学会, (21), p. 30-33.
- 2004/7. 小さな化石から知る大きな世界；太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州都市協会, (205), p. 23.
- 2002/4. 「化石からわかること」どう指導？；太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州都市協会, (190), p. 41.
- 2001/7. 化石は地球の「未知」を開く；太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州都市協会, (182), p. 23.
- 2000/4. “生きている化石”オウムガイ；太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州都市協会, (166), p. 19.
- 2000/12. 「万国地質学会」イン・リオ；太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州都市協会, (174), p. 17.
- 1999/8. 三葉虫化石の不思議な形；太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州都市協会, (158), p. 15.
- 1998/12. 太古の扉開く化石観察会へ；太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州都市協会, (150), p. 20.

- 1998/4. 絶滅した紡錘虫・フズリナ; 太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州市協会, (142), p. 18.
 - 1997/8. 充実した異国の研究室; 太田泰弘. ひろば北九州, 財団法人北九州市協会, (134), p. 18.
-

研究紹介

1. 北九州市の地質・古生物学的研究
 2. 無脊椎動物化石の古生物学的研究
(博物館における無脊椎動物化石標本を処理・整理するにあたっての総合的研究)
 3. フズリナ化石に基づく地質・古生物学的研究
(分類学的研究, 系統進化学的研究, 古生態的研究, 対比の研究, 古生物地理区の研究)
 4. 博物館研究
(博物館学芸員として他の博物館のスタッフとの情報ネットワークの構築)
-

外部リンク

- 日本地質学会 (<http://www.geosociety.jp/>)
- 日本古生物学会 (<http://www.palaeo-soc-japan.jp/>)
- 福岡県環境教育学会 (<http://www.fuku-kan-kyouiku.org/>)
- 日本洞窟学会 (<http://www.speleology.jp/>)

2023年4月1日